

〔ブタミホス乳剤〕

農林水産省登録 第17660号
 性 状：黄色澄明可乳化油状液体
 毒 性：普通物
 危 険 物：第4類第2石油類 III
 有効年限：4 年
 包 装：500 ml×20 本

クレマート® 乳 剤

有効成分：ブタミホス (PRTR・1種)…… 50.0%

補助成分：キシレン (PRTR・1種)………22%以下 エチルベンゼン (PRTR・1種)………21%以下



こちらのバーコードをスマートフォン等で読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の新しい情報をご覧いただけます。また、詳しい読み取り方・最新情報については11頁をご覧ください。

〔適用と使用方法〕

作物名	適用雑草名	使用時期*	適用土壌	10アール当り使用量		総使用回数*	使用方法	適用地帯
				薬量	希釈水量			
メロン 漬物用メロン	一年生雑草	定植・マルチ前 (雑草発生前)	砂壤土 ～ 粘土	200	100 ℓ	1回	全面土壌散布	全域
すいか かぼちゃ		定植前または定植・マルチ前 (雑草発生前)		400				
レタ なす		定植前 (雑草発生前)		200				
キャベツ きゅうり いちご								
はくさい とうがん ブロッコリー ひろしまな		定植活着後 (雑草発生前) 但し、定植10日後まで		200				
ねぎ わけぎ あさつき		植付後萌芽前 (雑草発生前)						
ばれいしょ さといも にんにく らっきょう やまのいも		は種後発芽前 (雑草発生前)		200				
らっかせい にんじん パセリ		植付後または培土後 (雑草発生前) 但し、120日前						
こんにゃく		植付後 (雑草発生前)		400				
グラジオラス		定植後 (雑草発生前)						
きく (ポットマム)	定植後 (雑草発生前)	400						
	定植後 (雑草発生揃期まで)							
たまねぎ	一年生雑草	定植後 (雑草発生前) 但し、60日前	全面土壌散布	北海道				
		定植後 (秋季の雑草発生前) 但し、60日前			全域			

作物名	適用雑草名	使用時期*	適用土壌	10アール当り使用量		総使用回数*	使用方法	適用地帯
				薬量	希釈水量			
つつじ類	一年生雑草	植付後または生育期 (雑草発生前)	砂壤土 ~ 埴土	200 ∩ 400 ml	100 ∩ 150 ℓ	本剤: 1回 ファミホス: 3回	全面 土壌 散布	全 域
たばこ (折衷マルゲ栽培)		植付 10 日前まで (雑草発生前)		200 ml				
アスパラガス		萌芽前 (雑草発生前)		200 ∩ 400 ml				
ピーマン とうがらし類		定植前 (雑草発生前)		200 ml				
うど		定植後出芽前 (根株養成圃) (雑草発生前)		200 ml				
わらび		株養成期 (地上部なし) (雑草発生前)		200 ∩ 400 ml				

#1: 全面土壌散布または雑草茎葉散布

効果・薬害等の注意

- 本剤は雑草発生前処理の効果が大きく、雑草が大きくなってからの処理では、効果が劣るので適期に処理する。
- 多年生雑草、キク科雑草およびツルクサには効果が劣るので、それらが優占する圃場での使用はさける。
- 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分を含んでいる時に使用する。また極度の過湿条件下では薬害のあることがあるので使用はさける。
- 砂質土壌では薬害を生じやすいので、所定量の範囲内で少なめの薬量を使用する。
- 播種または植付後は砕土、整地、覆土はていねいに行い均一に散布する。
- 定植前処理の場合、薬剤のかかった土壌が作物の根にふれないように注意して定植を行う。
- 作物の生育中に散布する際は、できるだけ薬剤が作物にかからないように注意する。
- 秋播たまねぎの春季処理は、薬害を生ずるので使用しないよう十分注意する。
- はくさいの場合、定植後に激しい降雨があると薬害を生じることがあるので処理時期に注意する。
- たばこに使用する場合、薬害を生じることがあるので、植付時に処理土壌が茎葉に接触しないように注意する。
また、トンネル栽培および改良畦面栽培では使用しない。
- 散布の際、付近の他の作物にかからないように注意する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意する。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意

- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意する。
 - ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにする。
 - 養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努める。

- 誤飲などのないよう注意する。
誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、直ちに医師の手当を受けさせる。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤による中毒の治療法としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の併用投与が有効であると報告されている。
- 眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。(刺激性)
- 皮ふに付着しないよう注意する。
付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落とす。(刺激性)
- 散布の際は、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用する。
また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は身体を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換する。
- 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

12 頁記載の注意事項、(1)、(2)、(3)、(4)－G も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

- 有機リン系の除草剤です。
- 主に雑草の幼芽部より吸収され、微小管の形成阻害を通して、細胞分裂を阻害し殺草します。
- 散布後 30～45 日ぐらいの残効があります。
- ガスによる揮散が少ない剤です。